

アンリツ株式会社

2026年3月期 第1四半期 決算説明会 Q&Aサマリー

Q1: Q1は米国関税政策の影響を受けたのか？

A1: モバイルとデータセンター関連では引合いは堅調なものの、Q1は米国関税政策の影響を受け、顧客の投資意思決定が延伸しました。

Q2: 前年同期は棚卸評価損が大きかったが、FY2025のQ1ではどうだったのか？

A2: 定常水準の棚卸評価損に戻りました。

Q3: Q1の環境計測事業は減収減益であったが、米国関税政策の影響を受けたためか？また、今後の見通しをどう見ているのか？

A3: Q1の減収減益は顧客都合で納期の延伸があったためであり、米国関税政策の影響ではありません。今後は、日本の自動車に対する関税率が決まったので、Q2で状況を見極めます。

Q4: 通期の業績見通しを据え置いた理由を教えてください。

A4: 市場からの引き合い状況は以前から変わっていません。Q1での顧客の投資意思決定の延伸については、米国の関税政策が明確になることで回復が期待できます。Q2で状況を見極めます。

Q5: Virtual Signaling Tester のようなソフトウェアビジネスの見通しは？社内競合することは無いのか？

A5: 5Gの開発向け測定器を提供してきましたが、上流設計向けのソリューションはありませんでした。この上流設計での試験をサポートできるようになります。使われる場面が違うので、社内競合は起きないと考えています。